

**サギタリウス・チャレンジ チャレンジ部門**  
**企画実施報告書**

タイトル	伝統工芸×学生 「京のこしらえ」手しごと体験会を創る ～伝統工芸の魅せ方開発プロジェクト～	
実施日	2019年 4月 1日 (火) ～ 2020年 3月 29日 (日)	
代表者	学生証番号	氏 名
	989077	西川 忠喜
企画概要	<p>生活様式の変化や需要の減少などを背景に伝統工芸産業全体が衰退しているといわれる現在、千年以上の歴史の中で世界に誇る伝統工芸の一大産地として発展した京都では、現在も様々な普及活動が行われている。インバウンド需要等の高まりもあって特に観光産業を中心にニーズがあり、又、福祉分野等との連携による「多様性の理解」を深める為の取組も始まっている。</p> <p>現行の学習指導要領で取り上げられているように、各地方自治体でも小中学校を中心に「伝統工芸」を守り普及するための取り組みを教育と文化に関わる現在的問題とし、美術教育における課題の一つとして、また地域文化の育成という意味での社会教育における課題として様々な普及活動が行われている。</p> <p>それらの取り組み等を通じて「京都文化としての伝統工芸」という歴史を背景とした手仕事体験が人々の「社会教育活動」や「コミュニケーションツール」として大変有意義であることが明らかになってきているが、一方で本来であればその恩恵を真近で受ける事が出来る環境にある地域住民や京都の学生（若者）にはあまり知られておらず、関心を持たれていない状況がある。</p> <p>本プロジェクトでは地域住民を対象とした伝統工芸の普及活動が「コミュニケーションツール」としての成立するかどうかについての可能性を探るため、「京都の伝統工芸体験」という枠組を活用し、永く当分野で汎用的に活用される「新たな伝統工芸体験会」の創出に挑戦したい。</p> <p>活動内容は、既存の伝統工芸体験会の見学・勉強会(伝統工芸工房の見学、角倉塾勉強会(京都文化と産業との結びつきについて等の内容 学生・地域住民等対象)を行い、伝統工芸職人との交流を重ねる中で職人のモノづくりへの想いや創作技法を汲み取り、それを参加者に分かり易く伝える手法についても検討し、そこで創り上げた「体験会」を実際にイベントとして実施し、検証していく。</p>	
活動状況	<p>以下の手順にて活動を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>0. 調査(伝統工芸職人の元で現状把握、手仕事を学ぶ)</li> <li>1. 移動式屋台の制作(職人と一緒に制作するワークショップ形式)</li> <li>2. モノづくり体験会(兼練習会)を既存のマーケットや会場にて実施</li> <li>3. 折り畳み式演台(屋台)を持ち込み、様々な街やコミュニティに於いて自分達で考えた京都の伝統工芸作り体験会の実施</li> </ol> <p>既存の伝統工芸体験会の見学・勉強会を4月より準備を進めつつ6月より伝統工芸体験会の実践・ポータブル屋台を使ってイベント参加等、随時実施した。</p>	

<p>考察</p>	<p><b>【体験会・勉強会の内容について】</b>          京都の伝統工芸が身近にあることやその良さを確認し、魅力を伝える活動を通じて社会的ニーズを増やすことを目的に本取組を始め、その活動の中で、京からかみ・京欄間・手描き友禅に共通する「伝統柄」に注目し、わかりやすく知ってもらえる取組と染織の作業も取り入れて検討。          和柄ペイントシール、くるみバッチ、自分で書いたイラストを蒔絵皿にする、などが候補に挙がり、京からかみポストカード作り・藍染めくるみバッチ作り・金継ぎ修繕の体験会を実施することができた。</p> <p>角倉塾研究会では、角倉宗家十七代当主として講演活動や地域活性化のための活動を行っておられる角倉吾郎さんをお招きし、京都産業界のルーツを一緒に辿り、角倉一族の残した事業、功績のスケールの大きさを知ることにより、角倉家の家訓にある「共生」「挑戦」「慈悲」といった精神が代々大切に伝えられ、高瀬川やその他の事業において実践されてきたことを知り、現代にも役立てていける考え方について学ぶことができた。</p> <p>伝統工芸職人や文化人との交流を重ねる中で職人のモノづくりへの想いや創作技法を汲み取り、それを参加者に分かり易く伝える手法についても検討した。</p> <p>現在は親子に「もっと伝統工芸を身近に楽しんでいただける体験」として、自分でお皿などに好きな絵を書いて、それを蒔絵にする「蒔絵皿作り体験会」を企画中である。</p> <p>伝統工芸に共通する「割付」、いわゆる作業準備の行程を知っていただけるような成果物作りも検討したが、それぞれの工芸を融合させた体験ツールの創出には至っておらず、今後の検討課題として残った。</p> <p><b>【体験会を手軽に行える屋台製作について】</b>          10月より数回のワークショップを実施して11月中の完成を目指していたが、既存屋台の作り直し等諸問題の発生により、小サイズ屋台については2月のお披露目となった。</p> <p>数度の体験会経験により得た体感やお客様の使用感などの要望を踏まえ、使い勝手や魅せ方について考慮し制作することができた。          今後は「折り畳み椅子作り」等、比較的容易に参加できるワークショップを企画中である。</p>
<p>所感</p>	<p>伝統工芸産業事業者及び職人との関係性の構築、開催する地域・商店街・フリーマーケット事業者等との良好な関係づくりを図るにおいて、「それぞれの想いに共感する姿勢」が伝わるのが大切であることを再認識した。</p> <p>今まで気になっていた伝統工芸の成立ちを関係者からお伺いすることで、自分が目指すプロジェクトの方向性を考えるきっかけが得られた。</p> <p>地元の人との会話の際に「伝統工芸」を使うことで、自分が考えていることを具体例を持って話すことができ、自分のアイデアや、相手のアイデアを話し合う「媒介」として活用できた。</p> <p>この様なプロジェクトを多様な専門性をもった学生と職人が地域の人々と触れ合い、協働する意義を感じた</p> <p>体験会の経験などの実践を通じて、          「手仕事の技術」「現場対応」「課題発見力」を強化することができた</p> <p>今後も継続して活動をより深めていくことによって、課題解決力のある人材育成に貢献しうる可能性を実感することができた。</p> <p>現在の業界における生活者のニーズに即した商品作りや流通システムの停滞の遠因ともいえる</p>

	<p>BtoCのコミュニケーション機会の分断についても時間をかけた関わりを通じて、学生や地域住民が伝統工芸産業の裾野を広げる担い手としての役割を一定果たせうることが確認できた。</p> <p>活動を継続していくことで「社会教育活動」「商業活動」としても伝統工芸産業が再興しうるステージが「体験会」には在るとの想いを深めている。</p>
--	---